

二ツ森貝塚



二ツ森貝塚史跡公園 遺跡の東地区は史跡公園として一般開放されています。広々としたのどかな芝生の中に復元住居や案内看板が設置されています。



骨角器 貝塚からは貝がら、魚骨、獣骨のほか、骨角器も多く出土します。釣針やモリなどの漁労に用いられた道具だけでなく、アクセサリや祭祀用と思われる道具も発見され、素材も鹿の角、イノシシの牙、クジラの骨などさまざま。特に鹿の角を加工して作られた櫛飾りは白眉で、穿孔、線刻、透かし彫りが精巧に施された二ツ森貝塚を代表する骨角器です。すべて青森県重宝。



墓の発見 ムラの周囲には、土坑墓と呼ばれるお墓が複数見つかっています。中には「フラスコ型土坑」と呼ばれる貯蔵穴の中から人骨が出土した例もあり、墓に転用した様子が見られます。



埋葬されたイヌの骨 ヒトを埋葬したフラスコ型土坑と同じ状態で、イヌの骨も見つかっています。縄文時代の昔から、ヒトとイヌの密接な関係が伺える貴重な資料です。埋葬されたイヌの骨は、二ツ森貝塚館で実物を見ることができます。



二ツ森貝塚館 廃校となった小学校の一部を改装し、二ツ森貝塚のガイダンス施設として令和3年にオープンしました。常設展示室では迫力ある貝層断面がお出迎え。見ごたえのある展示が楽しめます。ここだけのオリジナルグッズも販売しています。



人面付土器 取手の部分に人の顔が意匠された個性的な土器です。

約一万年前、地球の温暖化により氷河期が終わり、北極・南極の氷が溶けだすことで海水面が上昇した結果、青森県南地域においては現在の小川原湖を含んだ内湾が形成されました。七戸町のほぼ東端に位置する国史跡二ツ森貝塚は、当時の海岸線付近の段丘上に形成され、後に海岸線が後退した時期にかけて生活が営まれた縄文時代前期中頃～中期後半(約5,500年前～4,000年前)の貝塚を伴う集落遺跡であり、令和3年7月27日に世界文化遺産として登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産のひとつです。

二ツ森貝塚は東側と西側それぞれに貝塚が馬蹄状に広がっており、ホタテ、カキなどの海水系の貝が出土することから、当時の海進・海退といった環境の変化を示す重要な遺跡として注目されています。これまでの発掘調査により、東西の貝塚をはじめ、複数の竪穴建築物跡、貯蔵穴、お墓などが見つかり、当時のムラのつくりをうかがえます。また、土器、石器、骨角器に加えて様々な種類の貝類、魚骨、獣骨など、当時の生活や生業を示す遺物が多数発見されています。なかでも精巧に加工された鹿角製櫛や埋葬されたイヌの骨は多くの人たちの関心を集めています。遺跡範囲のうち東地区と呼ばれる地域は現在「二ツ森貝塚史跡公園」として整備され、散策しながら当時のムラの様子を知ることができます。史跡公園から800mほど離れた場所には廃校を再活用したガイダンス施設「二ツ森貝塚館」があり、二ツ森貝塚を中心とした七戸町内の遺跡紹介や遺物展示、体験学習が行われているほか、Tシャツや地元お菓子メーカーとのコラボ商品などのオリジナルグッズも販売されています。また、地元有志によって結成された「二ツ森貝塚ボランティアアガイドの会」が史跡公園や二ツ森貝塚館でガイドを行っており、遺跡の魅力を伝えてくれます(ガイドは要予約)。